

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立横川小学校
校長名	近藤 幸弘

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語においては、昨年度より学力の向上が見られ、全学年で平均正答率が全国値よりも上回っている。特に2年生は全国平均よりも13.7ポイント高く、A層55%、B層27%で82%が上位層を占めている。・算数においても、全学年で全国平均を上回った。特に2年生は全国平均よりも7.9ポイント高く、80%がAB層を占めている。・社会においては、昨年度よりも5年生で3.6ポイント、6年生で2.4ポイントと、高学年が上昇している。特に5年生は今年度、全国平均を上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・理科では、高学年の正答率が昨年度よりも下がり、5年生は1.5ポイント、6年生は3.2ポイント減少している。特に6年生においては全国平均を下回っている。・社会においては、正答率が昨年度よりは上昇したものの、全国平均には達していない。・算数においては、全学年で全国平均は上回っているが、3、4、5年生の正答率が昨年度よりも下がっている。・算数と理科において、昨年C層だった児童がD、E層に下がっている。特に算数では、基礎的な計算の定着がおろそかになっている。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・話し合い活動を楽しみ、自己肯定感が高い児童ほど学力が高い傾向がある。・自己肯定感は、学年が上がるにつれて下がる傾向があるが、全体的に高い。・授業や日常生活の中で不思議に思ったことなどを自分から調べようとしている児童がAB層に多い。	<ul style="list-style-type: none">・学習習慣のある児童が全国と比較して、少ない傾向がある。・宿題をしているが、予習、復習をあまりしていない児童も全国と比べ多い傾向がある。土・日・祝日はほとんど勉強していない。・テストで間違えた問題をやり直す児童は、D層では少なくなっている。・難しい問題に挑戦することはあまり好まない児童が多い。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・年2回「漢字コンテスト」、「算数コンテスト」の実施により、目標値9割に向けて、くり返し取り組み、達成率が高くなった。また、満点合格者を全校朝会で表彰したことにより児童の意欲向上につながった。・東京ベーシックドリル診断A、B、Cテストに段階を追って取り組み、2回目Aテストでは、7～8割達成できた。	<ul style="list-style-type: none">・国語、算数共にケアレスミスや文章の読み間違いが見られるなど、基礎・基本の完全定着には至っていない。・ワークテストのつまずき箇所を把握し、授業でふり返り、活用するまでには至っていない。・C、D層は国語、算数共に前年度までの学習が身に付いていない傾向が見られる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 課題を見付ける力や表現する力の育成

- ・「自らの課題を見つけ、学び合う児童の育成」を研究主題とし、児童自ら課題を自分のものとして捉え、自力解決し、積極的に自分の考えを表現できるような授業を行い、教員の授業力向上を目指す。
- ・学習課題に対し、思考の流れが分かるノートのとり方を教員に周知し、全校で取り組む。
- ・ICT機器を効果的に活用し、児童の興味・関心を引き出す、考えを共有する、理解を深める等の活動となるようにする。
- ・朝読書の時間を充実させ、読書好きの児童の育成や読書週間の充実を図る。学校図書館司書やボランティアを活用して、図書室や学級文庫の整備を行い、読書活動を充実させていく。

(2) 基礎・基本の定着

- ・授業開始時に本時のねらいを明確にし、児童の学習意欲の向上を図り、終わりにはまとめと学習課題に関する振り返りをして、学習内容を確実に身に付けさせる。
- ・「漢字コンテスト」「算数コンテスト」を年に2回ずつ実施し、学習意欲と学力の定着・向上を図る。
- ・算数では、少人数指導で習熟度に応じた指導を行い、どの児童にも「わかった」「できた」「身に付いた」という達成感や充実感をもたせるよう、授業内容を工夫する。
- ・朝学習を活用し、振り返りシートや東京ベーシックドリルに取り組みせ、基礎的な内容の確実な定着を図る。4教科の前学年までの復習や短作文、記述問題にも取り組みせ、既習事項の定着に努める。
- ・放課後学習教室を活用し、主にCD層の児童のつまずきを点検し、個別に学習指導を繰り返して行っていく。

(3) 家庭との連携を図った学習習慣の確立

- ・学習指導の一貫として、全学級で適切な宿題や課題を継続して出し、家庭での学習習慣を付けさせる。
- ・家庭で机に向かう時間（学年×10分）を示し、宿題以外の予習・復習や、テストの見直しができるようにする。
- ・「横川スタンダード」「横川っ子のやくそく」を家庭に示し、児童の学習習慣を確立していくために、個人面談や学年だより等で家庭に協力を願っていく。

3 「令和5年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各学年CD層からBC層へ5%増加させ、理科のDE層を20%程度に減少させる。
- ・平均正答率を5ポイント以上、上回り、今年度より同一集団の成長をさらに伸ばしていく。
- ・集中力を向上させることで無解答率を減少させ、目標値を上回る集団へと変容させる。